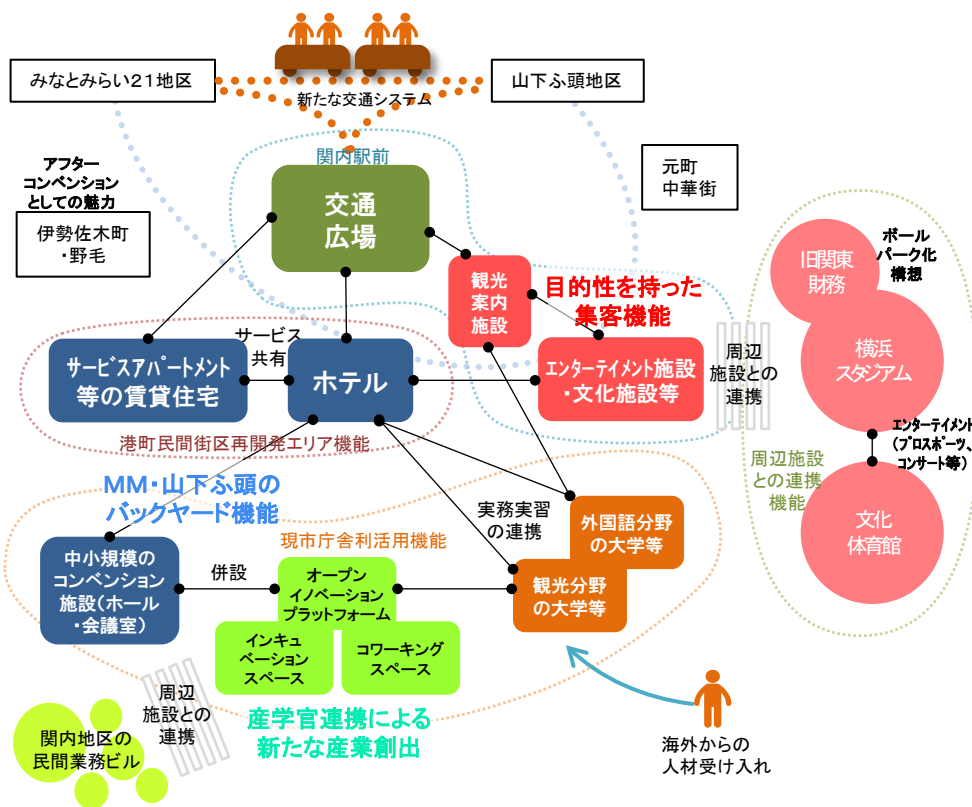
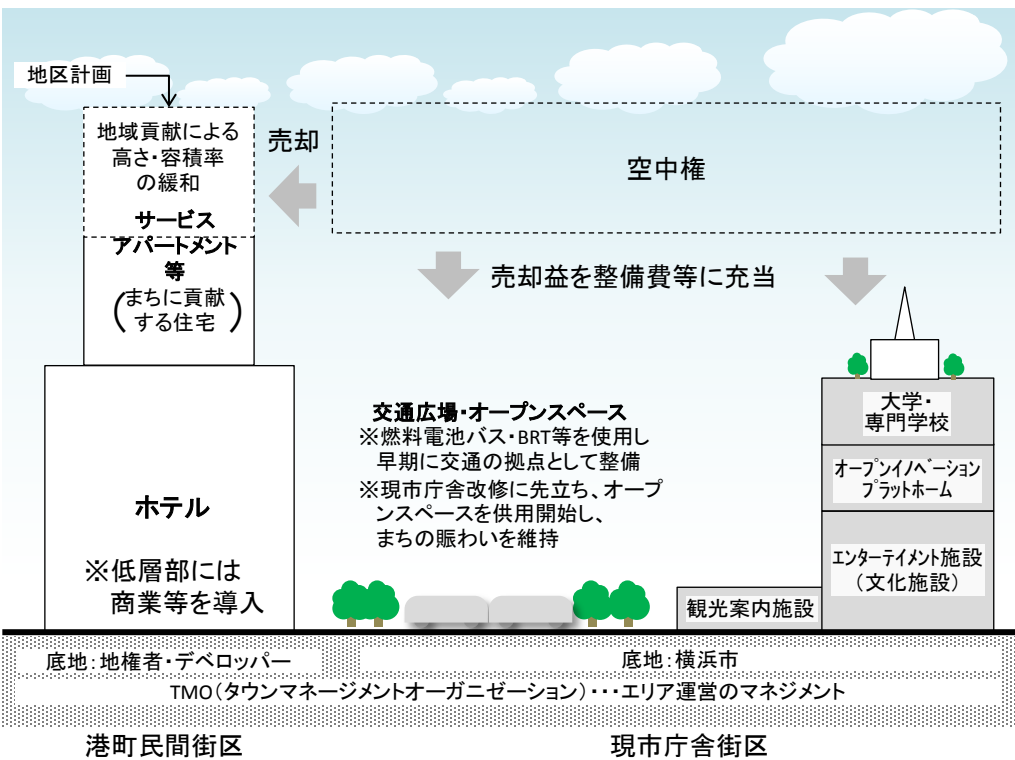


# アイデア3 “ヨコハマゲートウェイ”の創出

## 概要



- みなとみらいMICEと山下ふ頭再開発と連携した都心臨海部全体の集客・観光に必要な機能を補完する。
- 都心臨海部に不足している宿泊機能を設け、横浜市外へ流れている宿泊客を受け止める。その際、他エリアとは異なる特色を持つ宿泊機能として差別化を図る。
- 都心臨海部の回遊性を高める新たな交通システムの導入とこれを受け止める交通広場を設ける。
- アフターコンベンション機能として、伊勢佐木町や野毛など旧市街とMMなど新市街のハブを担う。
- 文化施設やエンターテインメント施設など目的性のある集客機能を設ける。
- 外国語対応や観光事業に係る従事者の人材育成を行うため、関連した大学・専門学校を誘致する。
- みなとみらいMICEと山下ふ頭再開発のバックヤード機能として、職住近接の環境を提供する。
- 現市庁舎を保全活用し、まちづくりのシンボルとすると共に、現市庁舎街区が遊休化することによる周辺地区への影響を最小限に留める。
- 大学やIT企業と連携した起業活動の促進を行う中核的な役割を担い、周辺民間ビルへ波及させる。
- 開発事業者・地権者・横浜市などが関わるTMOを設置し、持続可能なまちづくりを行う。



## 波及効果

- 1 観光客が横浜観光のゲートウェイとして関内を位置づける効果（関内の認知度の向上）
- 2 ホテル・エンターテインメント施設・大学等の利用者等の消費がもたらす経済効果
- 3 エンターテインメント施設、オープンスペース等におけるイベント開催に伴う経済効果
- 4 オープンインベーションプラットフォームにおける関内駅周辺地区の起業促進